

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

2019年7月第54回地盤工学研究発表会開催に向けて

第54回地盤工学研究発表会実行委員長 桑野 二郎
(埼玉大学)

来年2019年の第54回地盤工学研究発表会は7月16～18日にさいたま市の大宮ソニックシティで開催される予定となっています。私は昨秋実行委員長を仰せつかりましたので、ご挨拶を兼ね、簡単に状況のご説明とお願いをいたします。

準備委員会は昨秋、実行委員長＝桑野、副委員長＝宮田（防衛大学校）・若林（国交省関東地整）、学術部会＝若井（群馬大学）・清木（宇都宮大学）、行事事部会＝末政（東京都市大学）・高橋（東京工業大学）、総務部会＝内村（埼玉大学）・峯岸（日本大学）の小ぢんまりとした体制でスタートしています。もちろんこれだけでは実際の会議運営は出来ませんので、各部会と一緒に準備を進めていただける方々に、実行委員になっていただけるよう現在お願いしているところです。



会場に予定している大宮ソニックシティは大宮駅西口から徒歩3分で、その大宮駅は新幹線の停車駅であり、また東京駅や新宿駅からは直通在来線で約35分と、交通の便は非常に良い場所です。ソニックシティでは、約500人収容のホールに加え、約70人～180人収容の部屋15室を研究発表会の会場として確保しており、さらに展示場では50余りの展示ブース設置を予定しています。全てがソニックシティ内の隣接する2つの建物内で行われるコンパクトな研究発表会となります。

研究発表、展示に加え、見学や市民向け行事も関東支部らしいものとなるよう現在企画を検討しております。企画が固まりましたらご案内いたしますので、どうかご参加ください。

ご存知のように、関東支部で地盤工学研究発表会が開催されるのは、50周年、60周年など、地盤工学会の節目の年となっており、来年は70周年となります。記念行事は地盤工学会全体の祝賀行事となりますので、本部の方で色々企画を検討しておられることと思います。本原稿執筆の時点ではまだ何も聞いておりませんが、本部の方で企画が決まりましたら、当実行委員会としてもしっかり支援したいと考えています。

以上、来年7月に予定されております第54回地盤工学研究発表会について、現時点での大まかな状況をご説明いたしました。地盤工学研究発表会に期待される場所は皆様それぞれかと思いますが、基本は研究発表や技術展示を通して新しい知見や技術に直接触れ、顔を見て議論を行うことにあり、そこに現在のようなネット社会においても研究発表会が開催される意義があると思います。埼玉県は「特徴が無いのが特徴」と自虐的に言われることもある土地柄ではありますが（鉄道博物館は会場の近くにあります!）、それだけに研究発表会は基本をしっかりと押さえた充実したものになりたいと考えています。そのためには、沢山の交流が生まれることが肝要です。ぜひ多くの皆様にご出席いただけますようお願い申し上げます。

「ジオ散歩 ～等々力溪谷と多摩川周辺古墳群を巡る～」の開催報告

関東支部 会員サービスグループ
リーダー幹事 田中 剛(東京都市大学)

会員サービスグループでは、歩きながら、見て、知って、学ぶ企画「ジオ散歩」を開催しています。第3回となる今回は「ジオ散歩 ～等々力溪谷と多摩川周辺古墳群を巡る～」と題して、豊かな自然が残る東京都大田区と世田谷区をフィールドに選び、初夏の風も爽やかな土曜日の午後、19名の参加者とグループ幹事の総勢27名で多摩川沿いの武蔵野台地を散歩、盛況のうちに終えることができました。

今回は、東急電鉄多摩川駅をスタート地点に、多摩川台公園内を歩き、多摩川緑地を經由して、等々力溪谷・野毛大塚古墳を散策し、東急電鉄等々力駅へ至るルートを設定しました。多摩川台公園では、大田区立郷土博物館学芸員の斎藤様をお招きし、公園内に設置された古墳展示室や各古墳の前で古墳群の歴史や築造当時の時代背景に加え、発掘調査の方法、副葬品の種類や作り方に至るまで熱心にご教授いただきました。

散歩した多摩川台古墳群は、5世紀前半から7世紀中頃に築造された国史跡の亀甲山古墳と都史跡の宝菜山古墳の間に築造された8基から構成され、目の前に築造された当時の形のまま残る古墳の姿に、先人たちの土木技術の高さと技術を支える土木技術者の姿に思いを馳せる場所となりました。また、武蔵野台地を浸食して形成された開析谷の等々力溪谷では、台地の基盤である上総層群の高津互層、その上に堆積する渋谷粘土層、武蔵野礫層、武蔵野粘土層、東京軽石層、ローム層の水平堆積構造や渋谷粘土層と武蔵野礫層の間から流れ出る湧水を間近で観察する機会となりました。

散歩を終え、参加者の方々からは「新たな視点を得ることができた」、「来年も、また別の地域を散歩してみたい」等の声が寄せられました。今回のジオ散歩では、大田区立郷土博物館学芸員の斎藤様をはじめ、多くの皆様にご尽力いただき、充実した内容とすることができました。紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。



地盤情報を活用した首都直下型地震への対策検討委員会成果報告会 および講習会開催報告

地盤情報を活用した首都直下型地震への対策検討委員会

1. はじめに

地盤工学会関東支部「地盤情報を活用した首都直下型地震への対策検討委員会」は、2015年から2017年の3年間の活動の成果を報告するとともに、全国電子地盤図を用いました地震応答解析や液状化判定についての講習を平成30年6月8日(金)10:00~17:00に地盤工学会の地下会議室で行いました。この成果報告会への参加者数は56名でした。

2. 成果報告会および講習会の実施について

地盤情報を活用した首都直下型地震への対策検討委員会成果報告会を開催しました。はじめに、安田委員長から、「はじめに ~活動主旨と活動概要の説明～」と題して、今回多くの方が御集り頂いた御礼と、委員会の3年間の活動を総括した報告が行われました(写真-1)。そのあと、本委員会の活動を構成する3つのWGから、活動成果、研究事例の紹介について説明が行われました。その後、2つの話題提供「メッシュサイズの違いが地盤のモデル化に与える影響」を安田進委員長(東京電機大学、関東支部支部長)、「電子地盤図高度化の試み:三次元グリッドモデルの方法と適用例」木村克己委員(防災科学技術研究所)にお願いし、その後質疑応答を行いました(写真-2)。

午後の講習会はまず、「液状化現象の解説およびSHAKEに関するモデル化」と題して安田進委員長から説明して頂きました。その後、「電子地盤図を用いた地震応答解析に関する講習会」と題して、SHAKEの汎用版ソフト成層地盤地震応答解析プログラムk-SHAKE(構造計画研究所)への特別ライセンス版をお借りして、地震応答解析とその対応方法について、落合努委員と構造計画研究所の社員の方々のサポートを頂きながら講習会を行いました。また、中央開発から無料でWeb公開されている液状化簡易判定ソフトCKC-Liqを用いて、「電子地盤図を用いた液状化判定に関する講習会」を開催し、王寺 秀介委員(中央開発)によって、概要の説明と演習を行って頂きました。

3. おわりに

本委員会は、安田委員長のご指導のもとに、首都直下型地震への備えとして、東北地方太平洋沖地震の被害を整理して、地盤モデルを更新するための地盤情報データの追加収集、地盤モデルの高度化の試み、地盤モデルの地震応答解析、液状化判定の活用などを進めて来ました。これらの知見を書籍「新・関東の地盤」の続編として盛り込むための準備を次期委員会で行う予定です。

文責：清木隆文(委員会幹事、宇都宮大学)



写真-1 安田委員長の講演の様子



写真-2 聴講者及び質疑応答風景

若手技術者を対象とした意見交換セミナー開催報告

関東支部 本部
評議員 佐藤 毅

どんなに偉い先生も優れた熟練技術者も、かつては若くて未熟だったころがあったのです。そんな方々も地盤工学会を通じて同世代の技術者と出会い、互いに学び、交流を続け、気が付けば立派な技術者となった、と年配技術者は感じていると思います。若い技術者の学会離れが懸念されている昨今、若い技術者同士が集い、気兼ねなく、意見交換をしてもらいたい。年配技術者の楽しくも意義のあった経験を今の若い技術者の方々にも味わってもらいたい。その中で成長して欲しい。そんな願いを込めて、関東支部は、「若手技術者を対象とした意見交換セミナー」を企画し、以下の内容で開催しました。

- ・開催日時：平成30年6月28日（木）13:00～6月29日（金）12:00 1泊2日のセミナー
- ・開催場所：マホロバマイズ三浦
- ・参加人数：若手19名、関東支部幹事6名、顧問3名（石原先生、国生先生、安田先生）

当日は、本格的な夏の到来を思わせる暑さの中、多忙な業務を押して技術男子14名と技術女子5名が参加頂きました。開催場所は、京急三浦海岸駅から徒歩10分のホテル兼研修所で、観光客も多く集う大変綺麗な施設でした。温泉あり、おいしい食事あり、会議室は青く澄んだ三浦海岸を眺望できる配置で、参加者の気分をリラックスさせる最高のロケーションでした。

セミナーは、参加者の技術発表とそれに対する自由な意見交換を下地に進めました。発表は、調査あり解析あり現場施工問題あり、さらにはi-constructionに関わる最新技術もある盛り沢山の内容でした。討議は明るい雰囲気の中で闊達に行われ、さらに、顧問の先生方からの愛情ある質問と提言も加わり、大変盛況であったと思います。懇親会でも初対面でかしこまるかと思いきや、あっという間に歓談の場となり、座敷の中を皆が移動しつつ名刺と意見と笑顔が飛び交っていました。宿泊は、複数人が相部屋となる旅館形式を敢えて設定しました。図らずもワールドカップの日本対オランダ戦と重なり一部の部屋では25時くらいまで盛り上がっていたようでした。2日目のセミナーも初日の疲れもなく相変わらず闊達であり、若手の熱意を感じました。アンケート結果によれば、セミナー内容に対する満足度は91%、セミナー会場に関する満足度は72%で概ね好評であったと思います。一方、セミナー発表と質問時間の不足や相部屋への不満などが散見されており、それぞれの意見は、今後の参考になると思います。

今回の企画は、多忙の中細かな対応と協力を惜しまなかった幹事の皆様と事務局の青木様、無理を押して参加頂きました顧問の石原研而先生、国生剛治先生、安田進先生のご協力があったの成功であったと思います。この場をお借りして深く感謝を申し上げます。



写真-1 懇親会後の集合写真（参加者全員が笑顔です）



写真-2 会議室の窓からは三浦海岸が一望できます

「トルコにおけるジオフォーム技術の最近の現状：研究活動と実用」 特別講演会 開催報告

関東支部 茨城県グループ
幹事 伴 夏男

トルコ オカン大学準教授のアブドラ・トルガ・オザール博士は、2018年5月9日～11日に北キプロス・トルコ共和国で開催された「第5回EPS技術に関する国際会議」で議長を務められ、6月28日にEPS開発機構が防災科学技術研究所で実施した、“実物大振動模型実験”の見学のために来日されました。本講演会は、EPS開発機構の新任会長である、茨城大学 安原名誉教授のご厚意により、6月29日に茨城大学 地球変動適応科学研究機関にて開催されたものです（写真-1）。

EPS工法は、北欧ノルウェーで開発された工法であり、日本では1985年に導入され、主に軟弱地盤上の軽量盛土工法として適用されています。トルコは日本と同じ地震国であり、土木分野へのEPS（ジオフォーム）の適用が非常に多いとのこと。オザール博士はトルコにおけるこの分野の第一人者であり、EPSを用いた既存地下埋設物への荷重軽減、また日本ではあまり例のないEPSによる斜面補強等の研究をされています。講演ではこれらの研究成果および施工事例等が紹介されました。

斜面補強に関する研究では、模型実験の紹介がありました。砂で作成した模型盛土地盤表層にEPS模型を敷設し、背後地盤から水を供給することにより模型地盤を破壊させ、EPSの敷設形状・緊結状況の違いと計測水圧等より、破壊メカニズムの解明・EPSによる補強効果等を研究されています（写真-2）。

また新設道路下のライフライン保護のためにEPSを適用した施工事例が紹介されました。施工は3段で敷設され、原地盤面およびEPS境界面の沈下状況をモニタリングしながら構築したとのことでした。

聴講者は22名でしたが、日本における適用事例とはその目的が若干異なっていることもあり、活発な質疑応答があり、EPS工法の新しい適用法等も期待される講演会となりました。

最後に、講演会開催にご尽力いただきました、茨城大学およびEPS開発機構の皆様に御礼申し上げます。



写真-1 講演会風景

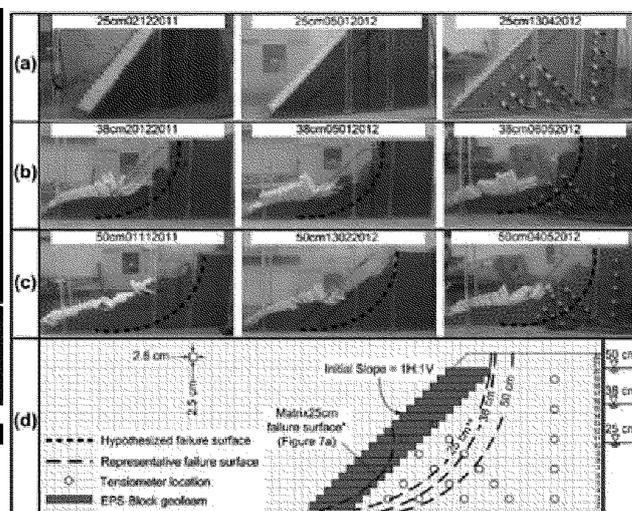


写真-2 斜面補強に関する模型実験

新三国トンネル工事の見学会

関東支部 群馬県グループ
幹事 久保田 佳幸

地盤工学会関東支部群馬県グループは、平成30年7月10日（火）に新三国トンネル工事の現場見学会を開催しました。本見学会は、掘削中のトンネル現場が見られる貴重な見学会であり、県内・外から官庁・企業・学生を合わせて39名の参加者がありました。

現在供用中の三国トンネルは、関東と北陸を結ぶ国道17号で重要な役割を担ってきました。しかし、完成から60年以上が経過して老朽化が進行し、特に酸性湧水によるトンネル覆工の劣化は覆工増厚補修で内空断面を縮小させ、大型車同士の通行に支障をきたしています。

これらの問題を解決するために計画されたのが新三国トンネルであり、昨年8月に掘削が開始され、現在は本格的にトンネル掘削が進行しています。

現場見学会では、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所の田村様より工事の概要を説明していただき、具体的な工事内容については株式会社フジタ（首都圏土木支店）の現場担当者に、現場を見ながら説明していただきました。

本トンネルの地質は、泥岩（赤谷層）にヒン岩が貫入した地山であり、湧水量も多く、数カ所で断層やせん断帯の存在が予想されています。また、この地山は熱水変質を受け、重金属を溶出しやすい特性を有しており、トンネルの掘削ズリから重金属が溶出する可能性もあります。そのため、掘削ズリの埋立整備場では、遮水シートによる封じ込めと処理施設による浸出水処理も行っており、環境面でも十分な対応が実施されていました。

本トンネルの掘削作業では、この地山は持つ独特な現場条件に対応できるように、以下のような施工機械設備や施工方法が導入されており、技術開発力と施工技術の高さを実感しました。

- ①削孔位置が自動に制御できるジャンボドリル
- ②ジャンボドリルの削孔データから切羽前方の地質状況を予測する前方探査技術
- ③クラッシャーで破碎した岩塊を連続ベルトコンベアで運搬するズリ出しシステム
- ④酸性水への抵抗力を高めた耐酸性型ロックボルト
- ⑤覆工コンクリートへの酸性地下水の影響を防止する地下排水工
- ⑥止水機能を高める厚さ2mmの防水シート
- ⑦止水性能向上を図るトンネルライニング工法

トンネル掘削工事は、限られた場所と時でしか見学することができず、今回の見学会は大変貴重な企画であったと思いました。地盤工学会関東支部群馬県グループは、今後もこのような見学会や技術講習会を企画しますので、皆様のご参加とご協力をお願いします。

最後に、今回の見学会は国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所と株式会社フジタ様のご支援とご協力がなければ、実現することはできませんでした。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



写真-1 新三国トンネル坑口部（新潟側）



写真-2 トンネルズリ埋立整備場

講演会の開催報告（東の軍艦島第二海堡の秘密に迫る）

関東支部 歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員会
 歴史的地盤構造物部会 野口 孝俊（委員）・正垣 孝晴（部会長）

- ・日時：平成 30 年 7 月 16 日（月；祝日）13 時 30 分～16 時 30 分
- ・場所：横須賀市本町コミュニティセンター（横須賀市総合福祉会館 6 階）
- ・主催：横須賀市集客促進実行委員会
- ・後援：地盤工学会関東支部・富津市・観光庁
- ・参加人数：約 230 名（定員 250 名）

政府の方針として、観光戦略によるインバウンドへの対応や地方振興を図る取り組みが進められている。国土交通省は、歴史的資源を活用した観光まちづくり構想から、社会資本におけるインフラツーリズムとして、明治期に東京湾海上に建設された人工島の要塞の一つである第二海堡跡（以降、第二海堡）を、観光資源としての利活用化に取り組んでいる。

横須賀市は「第二海堡と横須賀港新港地区を結ぶツーリズム」に対する航路実現に向け、市民の文化的意欲を発掘し、観光戦略に基づく新たなツーリズムのニーズを確認するため標記講演会を企画し、当地盤工学会関東支部に後援と講演依頼をされた。当関東支部では「江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会」が、横須賀市において、平成 27 年 8 月 8 日に、「近代日本のルーツ横須賀の歴史遺産“守り・支え・伝える地盤の技術”」と題する講演会を主催（参加者数約 230 名）した経緯があることから、本講演会を協働で盛り上げるべく、横須賀市からの要請を受け入れた。

開催案内は、タウンニュース横須賀版と横須賀市発行の

「広報よこすか」によって横須賀市民に周知され、神奈川新聞の地方版にも掲載された。当日の午前中には、横須賀市三笠公園前棧橋から第二海堡の外周を巡るクルーズが実施された。定員 50 名に対して 3,600 名を超える応募があり、第二海堡を含む明治期に建設された地盤構造物が数多く残る横須賀市の実態を反映した関心の高さを示した。なお、当日のクルーズの様子は TBSNEWS で放映され、参加者から「昔なのにこんなにすごく大きな人工の島を作ることができてすごいと思いました」などの好意的な感想が数多く寄せられた。

地盤工学会関東支部からは、野口委員（日本で初めての海上人工島である第二海堡の建設技術）と正垣部会長（東京湾要塞の建設材料の強度 - 我が国の土木遺構の中で-）の講演と意見交換を行った。これらは、2 名の手話通訳者によって、聴覚障害者に同時通訳された。講演と質疑の内容は、委員会 HP (<http://jibankantou.jp/group/rekishiisan2.html>) に詳しく紹介されている。



写真-1 熱気溢れる会場



写真-2 野口委員の講演

極大地震時における表層地盤の強い非線形現象とその影響に関する研究 シンポジウム 開催報告

関東支部 極大地震時における表層地盤の強い
非線形現象とその影響に関する研究委員会

委員長 浅岡 顕・副委員長 塩見 忠彦・幹事 金田 一広

平成 27 年度から 3 年間にわたり「極大地震時における表層地盤の強い非線形現象とその影響に関する研究委員会」を立ち上げ表層地盤の強い非線形問題について検討してきました。委員会発足 1 年後に熊本地震が発生し 2 度も震度 7 の地震が観測され、阿蘇カルデラ内には表層滑りと流動にともなう graben/horst 状の地盤変状、熊本市内には広域の液状化、益城町周辺には横ずれ断層上の表層地盤の Riedel せん断帯など、生々しい地盤変状が発現されました。これらは、あらためて強震時の地盤の非線形現象解明の重要性を実感させるものでした。極大地震時の地盤変状の予測には、地盤性状の精密な調査と入力地震動の適切な想定のもとに、履歴材料としての地盤の状態変化に追従する土骨格の弾塑性理論や、空気～水～土連成の非線形計算力学が強く求められるようになってきています。

本委員会では、最新の弾塑性力学による地盤変状の解析事例や、工学的基盤に入射する地震波の推定方法など、実務に適用すべき話題を中心に議論してきました。その成果報告として下記のシンポジウムを開催いたしました。本委員会は関東支部のみならず、名古屋や東北からの参加もあり、また、委員会以外からも安田先生や國生先生にご投稿いただきました。前日に台風 13 号が接近して開催が危ぶまれたにもかかわらず、当日は一転真夏の暑さとなり、その暑い中でも発表者を含め総勢 78 名もの参加者に集まっていただきました。強震時の地盤の破壊現象や最新の解析手法など参加者とともに活発に議論をすることができました。

3 年間という期間であったため議論する範囲は限られてはいたものの、首都圏直下地震や南海トラフ/北海道東岸沖での海洋型地震など、迫り来る地震に対して地盤力学/工学の役割が高まっている中でよい検討ができたと感じています。このシンポジウムを通してさらに地盤の非線形現象の研究が進むことを大いに期待しています。

シンポジウム日程

日時：8 月 10 日（金曜日）9:00~16:30

場所：地盤工学会 地下会議室



写真-1 参加者の概要



写真-2 安田先生のご発表

平成 30 年度地盤工学会関東支部賞候補募集要項

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」、「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

受賞対象：関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

地盤工学会関東支部技術賞：

- ① 地盤工学的観点から優れた工事の計画、調査、設計、施工、計測および維持管理等に関する業績等
- ② 活用性、汎用性に優れた技術の開発および実用化等
- ③ 創造性、特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等

地盤工学会関東支部功績賞：

- ① 地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等
- ② 地盤工学の PR および社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等
- ③ 地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等

対象者資格：受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員、学生会員、特別会員）、および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

応募の形式：推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く）、または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

審査：地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必要に応じてヒアリングを実施いたします。

発表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表彰：2019年4月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推薦受付：2018年9月14日（金）より2018年11月26日（月）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提出先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞○○○○○賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内

公益社団法人 地盤工学会関東支部

電話 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。

※ <http://www.jgskantou.sakura.ne.jp/event/2018kantouaward.html>

(提出資料)

- 1.推薦書 1部
- 2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）10部
 - 地盤工学会関東支部技術賞①、②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット
 - 地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告、1編
 - 地盤工学会関東支部功績賞①、②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3編
 - 地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）

平成 29 年度関東支部賞受賞

技術賞	<p>「東海村における公共施設と宅地の一体的な液状化として開削工法による地下水位低下工法のCM業務」</p> <p>株式会社千代田コンサルタント・東海村</p> <p>この度は、地盤工学会関東支部技術賞に選出していただき、心から感謝申し上げます。本受賞は2011年東日本大震災において茨城県東海村で多くの戸建て住宅が液状化被害を受けた緑ヶ丘団地に対する「公共施設と宅地の一体的な液状化対策として開削工法による地下水位低下工法」の復旧の調査・分析・設計・施工までの一体的なCM業務です。</p> <p>最後に、本業務を進めるに当たって、地盤工学会関東支部の液状化専門家（委員長：東京電機大学安田進）からなる液状化対策検討委員会に皆様のご指導により、5回に及ぶ住民説明会で地元住民と合意形成を図り、安全に液状対策工事を成し遂げることができました。委員の皆様にご感謝申し上げます。</p>
技術賞	<p>「パレスシートと砕石による軟弱地盤の表層改良工法の開発と実用化」</p> <p>鹿島建設株式会社・芦森工業株式会社</p> <p>このたび技術賞を頂きましたパレスシート工法は、ヘドロ状の超軟弱埋立地の安定処理工法として開発に着手したところ、意外にも、鉄道や道路など、主に市街地で施工実績を重ねてまいりました。これは粉塵防止効果・産廃削減効果・振動抑制効果など、開発担当者が当初は気付いていなかった付加価値を高く評価いただいた結果でもあります。当工法をご検討・ご指導下さいました全ての関係各位に心より御礼を申し上げます。</p>
功績賞	<p>「関東支部設立及び千葉県グループの創設ならびに活動活性化への貢献」</p> <p>畑中 宗憲</p> <p>この度は、地盤工学会関東支部の総会において、「関東支部設立及び千葉県グループの創設ならびに活動活性化への貢献」という内容で「平成 29 年度関東支部功績賞」を頂きました。千葉県グループは創設当時から、千葉県、千葉県地盤・地質業及び千葉県在籍の学校関係者が一致協力して、講習会、講演会および見学会を通じて地盤工学関係者ばかりでなく、一般市民にも広く本学会の社会的役割を伝えてきました。この賞は、千葉県グループの活動に対して授与されたものと考えております。心より感謝を申し上げますとともに、今後とも一層積極的に活動してまいります。</p>

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
H30.04.27	支部総会・特別講演会「東京都心の3次元地盤モデルに基づく伏在活断層の推定」	JGS 会館
H30.05.26	会員サービスグループ「ジオ散歩～等々力溪谷と多摩川周辺古墳群を巡る～」	多摩川・等々力
H30.06.08	「地盤情報を活用した首都直下型地震への対策検討委員会の成果報告会および講習会」	JGS 会館
H30.06.28	後援行事：「EDO-EPS工法 実物大耐震実験・公開実験」	(国研) 防災科学技術研究所大型耐震実験施設
H30.06.28-29	企画総務グループ「若手技術者を対象とした意見交換セミナー」	マホロバインズ三浦
H30.06.29	茨城県グループ「アブドラ・トルガ・オザール博士の特別講演会」	茨城大学地球変動適応科学研究機関
H30.07.10	群馬県グループ「新三国トンネル現場見学会」	新三国トンネル
H30.07.16	後援行事：第二海堡ツーリズム化の機運を高めるため「東の軍艦島 第二海堡の秘密に迫る」海上見学企画クルーズと講演会	本町コミュニティセンター
H30.07.21	共催行事：平成30年度“彩の国”市民科学オープンフォーラム「大宮駅グランドセントラルステーション化構想を『防災』の視点から考える」	浦和コミュニティセンター多目的ホール
H30.08.10	「極大地震時における表層地盤の強い非線形現象とその影響に関する研究委員会」の終了とシンポジウム開催	JGS 会館
H30.08.31	千葉県グループ「東京湾アクアライントンネル施設見学会」	東京アクアライン
H30.09.05	茨城県グループ「細粒土のダイナミクス：地震時に果たす役割（仮題）」	茨城大学
H30.09.21	ジオセミナー「宅地問題への地盤工学の社会貢献～書籍『法律家・消費者のための住宅地盤 Q&A』の発刊を踏まえて」	JGS 会館
H30.10.03	「法律家・消費者のための住宅地盤 Q&A」講習会	JGS 会館
H30.10.05	平成30年度第1回評議員会・特別講演会「東京外かく環状道路の整備について」	JGS 会館

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧下さい。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
H30.10.12	栃木県グループ講演会「人工知能(AI)の最先端と地盤工学への応用」	宇都宮市東生涯学習センター
H30.10.18	茨城県グループ「EDO-EPS工法 現場見学会」	茨城県石岡市
H30.10.19	茨城県グループ「地盤の計測・探査技術見学会」	応用地質(株)計測システム事業部
H30.11.02	第15回地盤工学会関東支部発表会 GeoKanto2018	国立オリンピック記念青少年総合センター
H30.11.10	会員サービスグループ「第13回ソイルストラクチャーコンテスト」	日本大学理工学部船橋校舎
H30.11.17	歴史遺産の地盤工学に関する研究委員会「人と水害 過去・現在・未来」講演会	中央大学
H30.12.04	前橋泥流堆積物がわかる ～路頭の見学と講演～	群馬県庁
H30.12.07	茨城県の地質・勉強会	産業技術総合研究所

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

【今後の委員会予定】

日 時	委員会名称	場 所
H30.10.10 14:00~17:00	新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会	JGS 会館
H30.10.24 15:00~17:00	会員サービスグループ幹事会	JGS 会館
H30.11.29 15:00~17:00	企画総務グループ幹事会	JGS 会館
H30.12.20 14:00~17:00	自然災害に対する安全性指標（GNS）の開発とその利活用に関する研究委員会	JGS 会館
H30.12.21 14:00~17:00	運営委員会	JGS 会館

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、E-mail : kantouevent@jiban.or.jp または FAX : 03-3946-8699 までお申し込み下さい。

(波多野 正邦：企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

<http://jibankantou.jp/>